

平成23年台風第12号災害の報告

台風12号による土砂災害発生件数

(10月28日 10時時点)

土砂災害発生件数

202件

- 土石流等 : 92件
- 地すべり : 28件
- がけ崩れ : 82件

【一般被害の状況】

死者73名、行方不明者19名

※10月5日15時現在 消防庁情報

【うち、土砂災害による被害の状況】

死者41名、行方不明者15名

人家全壊53戸、半壊29戸、一部損壊38戸

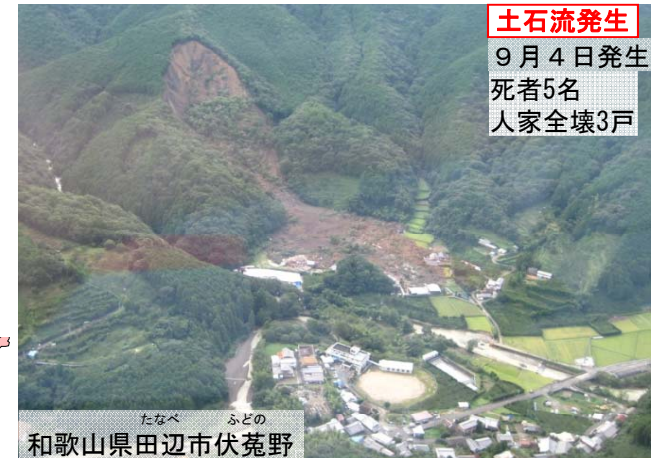
※10月28日 10時現在 国土交通省調べ

土石流発生

9月3日発生



人家全壊1戸
よしの くるたき あかたき
奈良県吉野郡黒滝村赤滝



土石流発生

9月4日発生

死者5名
人家全壊3戸

たなべ ふどの
和歌山県田辺市伏菟野

がけ崩れ発生

9月3日発生



人家全壊2戸
一部損壊1戸
みよし いけだ
徳島県三好市池田町

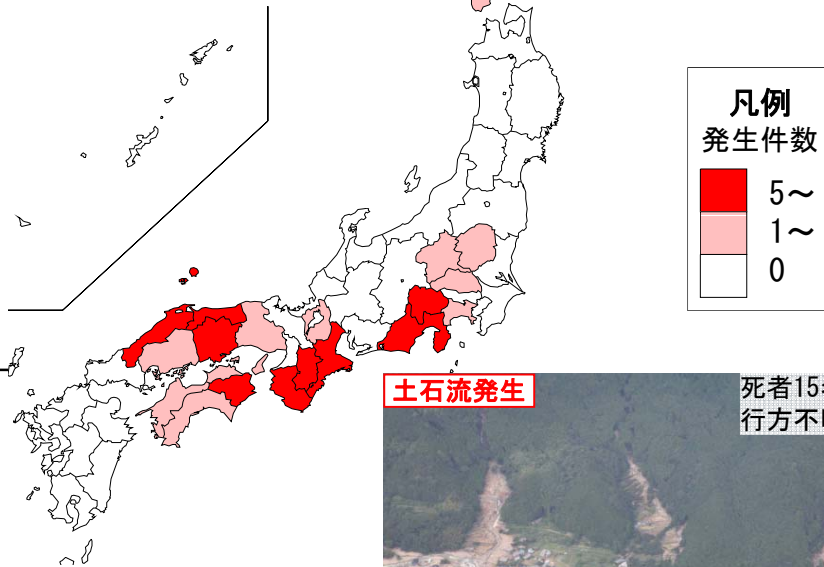
土石流発生

9月4日発生

つ みすぎ いしなはら
三重県津市美杉町石名原



人家全壊2戸
一部損壊1戸



凡例
発生件数

	5~
	1~
	0

土石流発生

9月3日発生

死者2名
行方不明1名



土石流発生方向

よしの とつかわ ながとの
奈良県吉野郡十津川村長殿

土石流発生

9月4日発生



死者2名
行方不明1名
人家全壊1戸
たなべ いや

土石流発生

死者15名
行方不明1名



ひがしむろ なちかつら なち
和歌山県東牟婁郡那智勝浦町那智川支川

和歌山県田辺市熊野

台風12号による土砂災害発生箇所 (三重県、奈良県、和歌山県のみ)

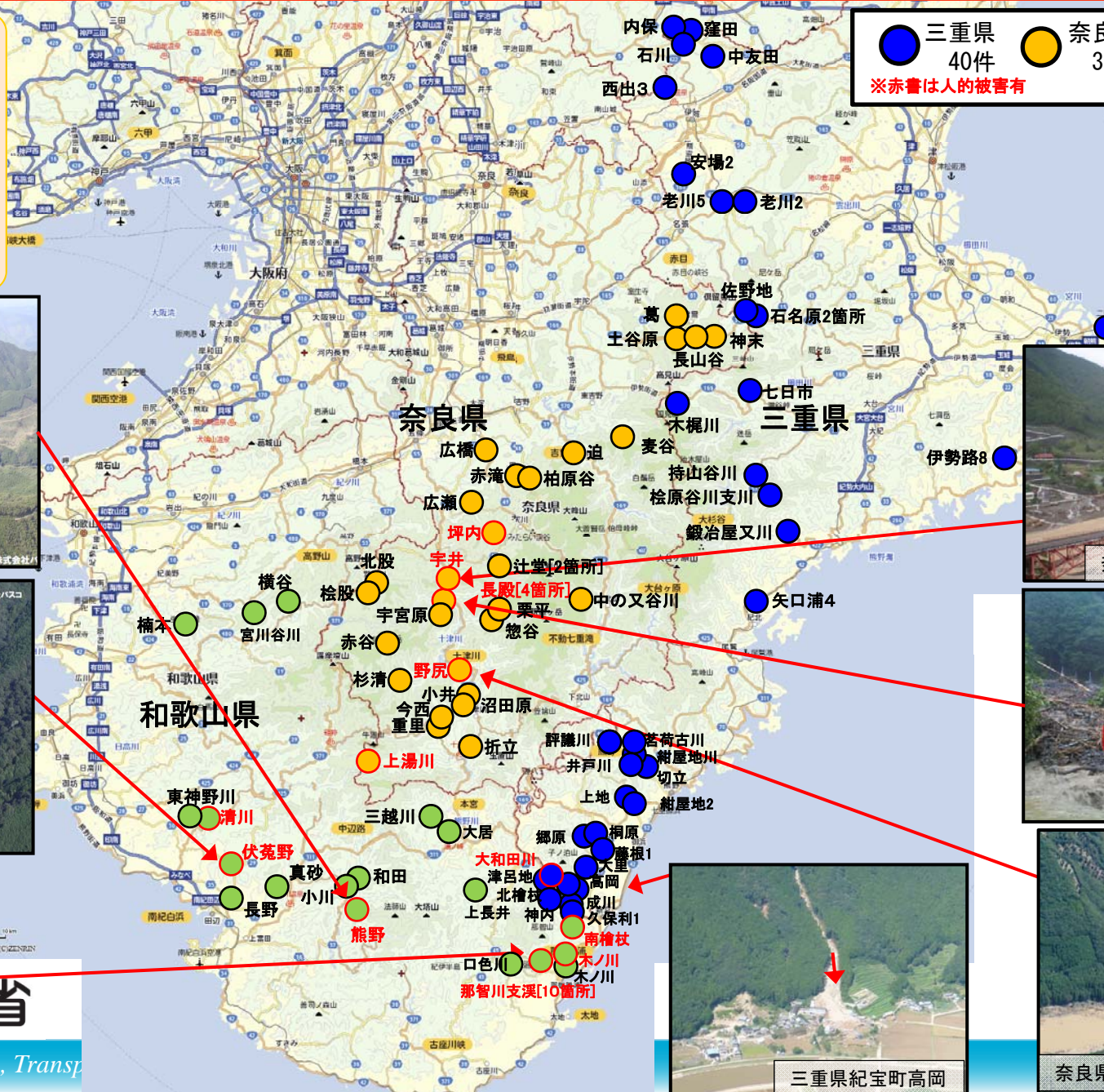
(10月28日10時時点)
土砂災害発生件数

101件

- 土石流等 : 58件
- 地すべり : 13件
- がけ崩れ : 30件

● 三重県 40件	● 奈良県 33件	● 和歌山県 28件
--	--	--

※赤書は人的被害有



台風12号による土砂災害(人的被害発生箇所)

土砂災害により、三重県、奈良県、和歌山県において死者41名、行方不明者15名の人的被害が発生

① 土石流等【死者2名、行方不明者6名】



のじり
奈良県吉野郡十津川村野尻

⑥ 土石流等【死者5名】



ふどの
和歌山県田辺市伏菟野

国際航業株式会社・株式会社パスコ撮影

三重県、奈良県、和歌山県において **101件** の土砂災害が発生 (10月28日10時現在)

	土石流等	地すべり	がけ崩れ	合計
三重県	13	2	25	40
奈良県	21	9	3	33
和歌山県	24	2	2	28

② がけ崩れ かみゆかわ
奈良県吉野郡十津川村上湯川
【死者1名】

③ 土石流等 ながとの
奈良県吉野郡十津川村長殿
【死者2名、行方不明者1名】

④ 土石流等 つぼのうち
奈良県吉野郡天川村坪内
【死者1名】

⑤ 土石流等 うい
奈良県五條市大塔町宇井
【死者6名、行方不明者5名】

⑦ がけ崩れ きよかわ
和歌山県日高郡みなべ町清川
【死者1名】

⑧ 土石流等 いや
和歌山県田辺市熊野
【死者2名、行方不明者1名】



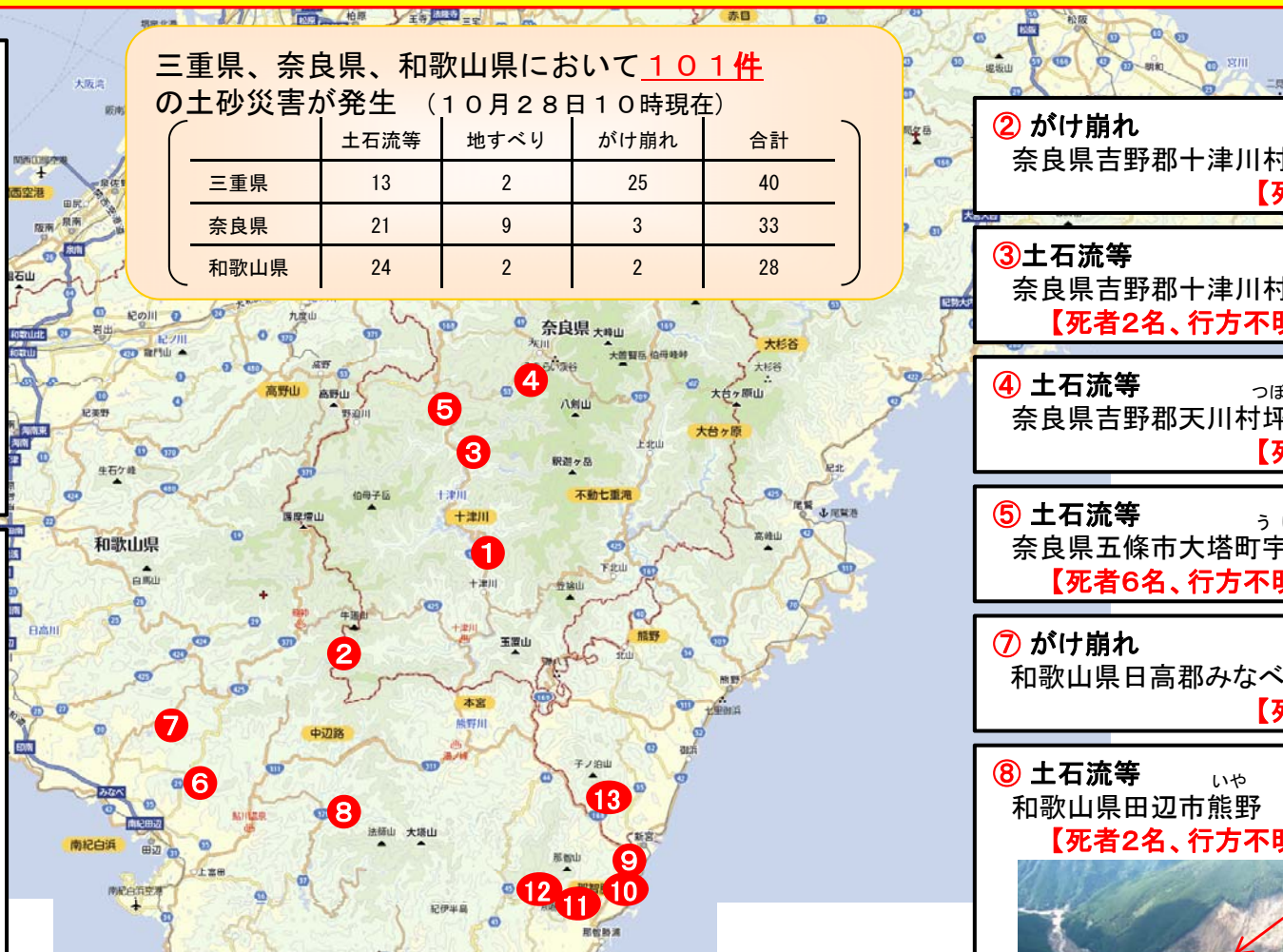
⑩ がけ崩れ きのかわ
和歌山県新宮市木ノ川
【死者1名】

⑪ 土石流等 ひがしむろぐん いせき
和歌山県東牟婁郡那智勝浦町井関
【死者3名、行方不明者1名】

⑫ 土石流等 ひがしむろぐん いちのの
和歌山県東牟婁郡那智勝浦町市野々
【死者13名】

⑬ 土石流等 あさり
三重県南牟婁郡紀宝町浅里
【行方不明者1名】

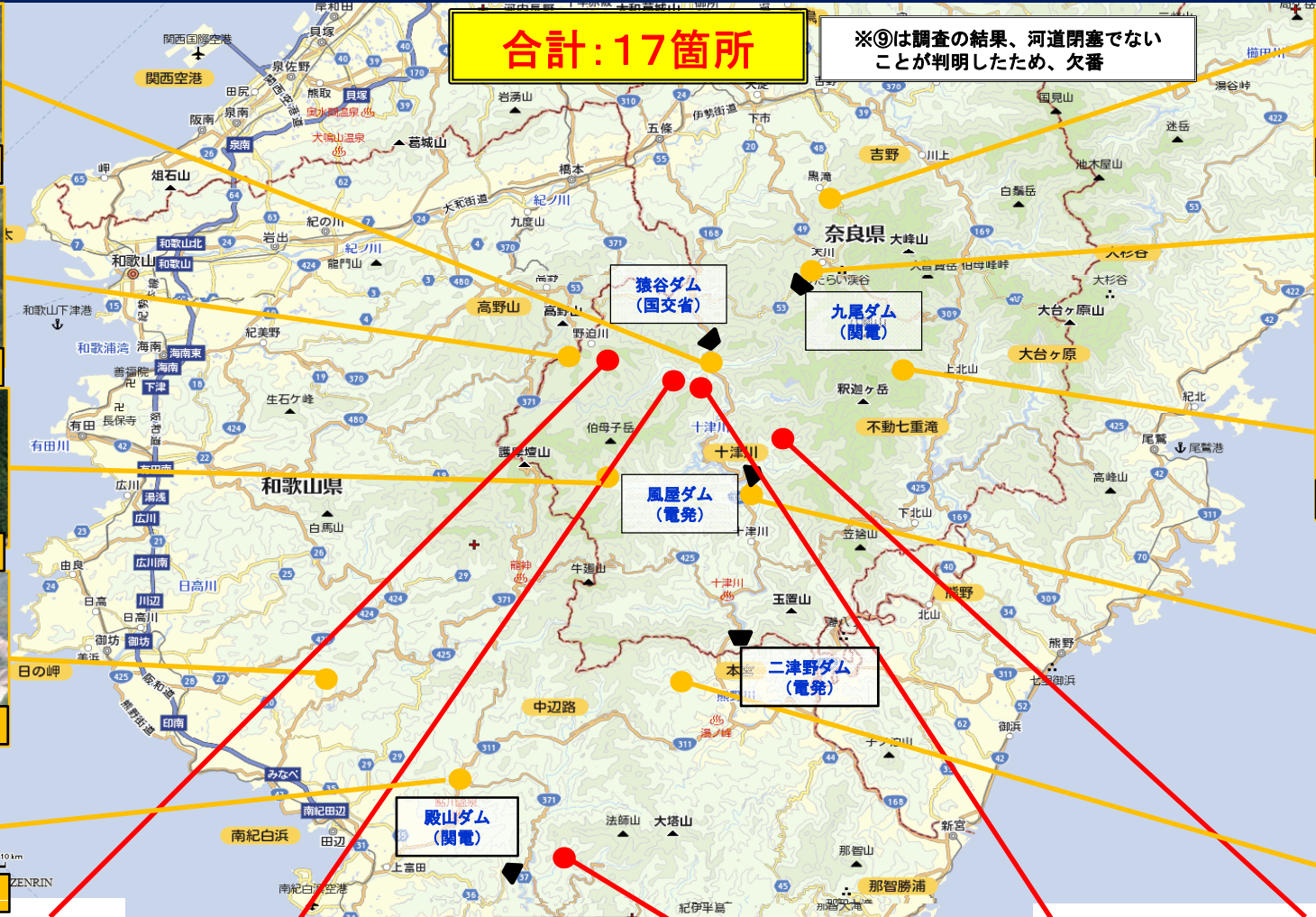
⑨ 土石流等 みなみひづえ
和歌山県新宮市南檜杖
【死者4名】



台風12号関係 河道閉塞発生箇所(奈良県・和歌山県)

合計: 17箇所

※⑨は調査の結果、河道閉塞でないことが判明したため、欠番



緊急調査対象

高さ: 約25m
満水時湛水容量: 約4万m³

⑭奈良県野迫川村北股

緊急調査対象

高さ: 約85m
満水時湛水容量: 約550万m³

⑥奈良県五條市大塔町赤谷

緊急調査対象

高さ: 約60m
満水時湛水容量: 約110万m³

⑫和歌山県田辺市熊野

緊急調査対象

高さ: 約80m
満水時湛水容量: 約270万m³

⑤奈良県十津川村長殿

緊急調査対象

高さ: 約100m
満水時湛水容量: 約750万m³

⑦奈良県十津川村栗平

台風12号災害で指摘された事項(テレビ・新聞等の報道より)

指定の進捗状況に関して

- ・土砂災害発生箇所が多くが警戒区域に指定されていなかった

警戒避難体制の整備に関して

- ・避難勧告等の発令基準を定めていない市町村がある
- ・平地がほとんどなく、安全な避難場所を確保できない
- ・避難先の公民館が警戒区域内にあることを住民が知らなかった

避難勧告・避難指示に関して

- ・市町村が避難勧告・避難指示を行わなかった

【出さなかった理由】

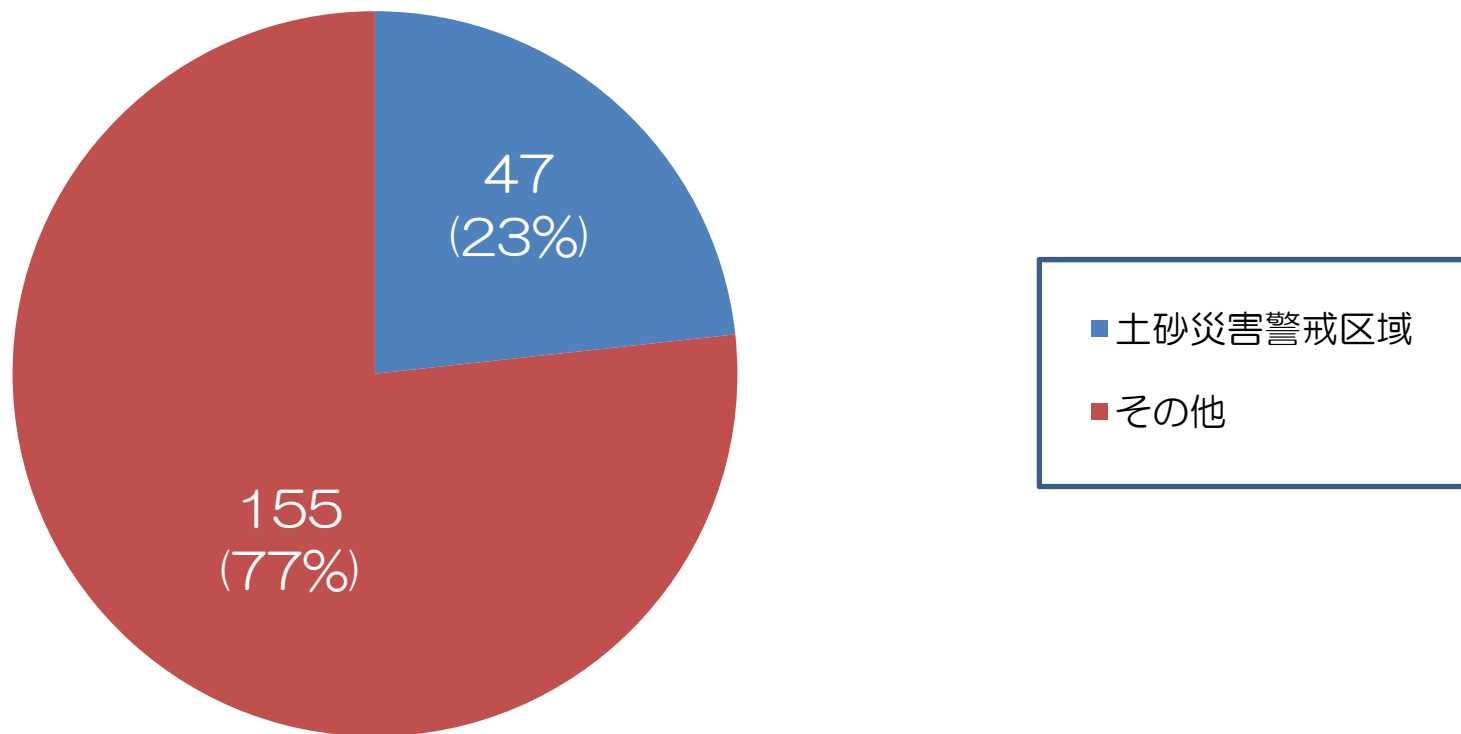
- ・最近災害が発生していなかった
- ・土砂災害警戒情報が出ていなかった
- ・落石や濁り水など前兆となる現象の報告は入っていなかった
- ・災害対策本部をまだ設置していなかった
- ・土砂災害を想定していない場所だった
- ・住民の負担を考えると軽々には出せない
- ・頻繁に出すとオオカミ少年的になってしまい、空振りも多い
- ・大雨の中では逃げる途中で被災する可能性が大きい
- ・現地と連絡を取る手段が雨による影響ですべて途絶えた
- ・避難勧告や指示を出すのが遅かったのではないか
- ・住民に的確な情報を伝え、避難を促す仕組みが必要ではないか
- ・市町村判断を支える情報整備を国・県が中心に進めることや、国・県・市町村で情報や状況について意識共有等の連携を図ることが必要ではないか

台風12号による土砂災害発生箇所について

- 台風12号により全国で202箇所で土砂災害が発生
- 上記202箇所のうち、土砂災害警戒区域に該当していた箇所は47箇所（土砂災害特別警戒区域は12箇所）

土砂災害発生箇所における土砂災害警戒区域の指定状況

（H23.10.28 10時時点）



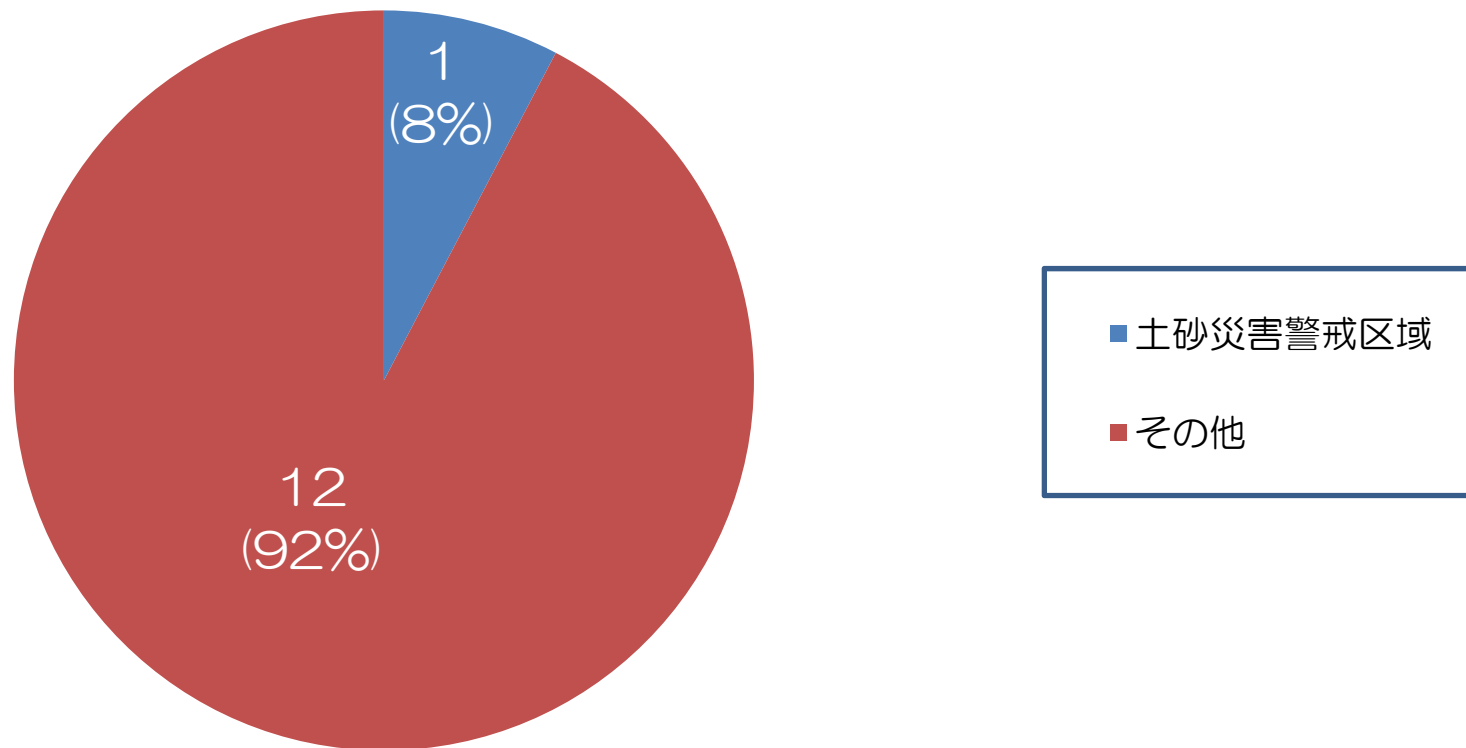
N=202（箇所）

台風12号により人的被害が発生した土砂災害発生箇所について

- 台風12号で死者・行方不明者を伴う土砂災害は13箇所で発生(三重県、奈良県、和歌山県)
- 上記13箇所のうち、土砂災害警戒区域に該当していたのは1箇所(土砂災害特別警戒区域は該当無し)
- また、13箇所すべてで土砂災害警戒情報は発表されていたが、避難指示・避難勧告は発表されていなかった

人的被害が発生した土砂災害発生箇所における土砂災害警戒区域の指定状況

(H23.10.28 10時時点)



N=13 (箇所)

台風12号災害で指摘された警戒避難体制に関する問題点

- 山林がほとんどを占め、安全な避難所を置くことができる適地が少ない地域では、避難所が土砂災害警戒区域内に置かれているケースがある

台風12号災害で指摘された避難勧告・避難指示に関する問題点

- 台風12号では、土砂災害警戒情報は発表されていたが、避難勧告等は発表されていなかった地区で人的被害を伴う土砂災害が発生
- 市町村担当者は、「事前に目立った被害が出ていなかった」「氾濫の危険が目に見える河川と異なり、土砂崩れは判断が難しい」と話している

その他今回の台風12号災害で指摘された事項

災害の状況

- 台風12号による豪雨により、奈良県十津川村野尻地区などでは、斜面から流出した土砂が河川をふさいで濁流があふれ出すなどして、対岸の川岸にあった住宅に被害をもたらした。

土砂災害防止法の規定

- 土砂災害防止法では、急傾斜地の崩壊等に伴う土石等の衝撃等による災害を想定して、土砂災害警戒区域や土砂災害特別警戒区域の指定基準を定めている。

指定基準に関する指摘

- 今回の災害を受け、流出した土砂が川をせき止めて水があふれ出すことにより被害を及ぼすような現象についても土砂災害防止法の対象に含めるべきではないかとの声も出ている。



【奈良県十津川村野尻地区で発生した災害】
・斜面から流出した土砂で熊野川がせき止められ、あふれ出した水が対岸の村営住宅2棟を直撃して死者・行方不明者8名を出した。
・被災した村営住宅は、西側(写真下側)にある急傾斜地の崩壊に関する土砂災害警戒区域に指定されていた。